

学科名	生物環境化学科							
科目名	生物環境化学特別講義 II							
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	4年後期			
必修・選択の別	選択科目							
担当者	森田 資隆							
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学学部専門課程レベルのバイオテクノロジー、生化学、微生物学、分子生物学、遺伝子工学、バイオ関連英語、バイオ関連法規について理解する。 ・バイオ技術者認定試験(中級、上級)に合格できる能力をめざす。 							
日程と内容	<p>9月16日：導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法について説明</p> <p>9月26日：バイオテクノロジー、分析機器、演習</p> <p>9月30日：法令、安全性、演習</p> <p>10月7日：生化学、細胞、生体エネルギー、糖質、演習</p> <p>10月14日：生化学、タンパク質、脂質、核酸、酵素、演習</p> <p>10月21日：生化学、ビタミン、ホルモン、ミネラル、植物、演習</p> <p>10月28日：微生物学、種類と特徴、構造と機能、演習</p> <p>11月4日：微生物学、代謝、増殖、変異、演習</p> <p>11月11日：微生物学、食品、環境、実験、演習</p> <p>11月18日：分子生物学、生命と細胞、遺伝、核酸、遺伝子、演習</p> <p>11月25日：分子生物学、遺伝情報、タンパク質、生体防御、演習</p> <p>12月2日：遺伝子工学、遺伝子組み換え、細胞工学、演習</p> <p>12月9日：バイオ英語、生化学、微生物学、演習</p> <p>12月16日：バイオ英語、分子生物学、遺伝子工学、演習</p> <p>1月13日：バイオ技術者認定試験対策まとめ</p> <p>1月20日：定期試験</p>							
成績評価基準	定期試験	50%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	0%		
	演習	50%	計	100%				
授業到達目標の達成度	講義中では、バイオテクノロジー、生化学、微生物学、分子生物学、バイオ英語などについて講義を行った。そして、授業評価アンケートでの理解度でも、平均値が5.0であることから、ある程度は十分に理解されていると考えられる。したがって、評価成績に準じたレベルに到達できたと判断した。							
反省点	授業評価アンケートでは、『授業内容の理解度』で平均して5.0点/5点満点であったが、評価の中にもやや低い評価も一部見受けられた。これは、本講義が専門科目であることから、ある程度の基礎科目の履修を踏まえて履修することが望ましいが、そのレベルに到達できていない学生も含まれるため、専門性の高い講義内容について行けなかった学生が居るためと考えられる。今後は、同じ講義内容でも、レベルに合わせて解説をすることに努めて行きたい。							
来年度の計画	大学学部専門課程レベルのバイオテクノロジー、生化学、微生物学、分子生物学、遺伝子工学、バイオ関連英語、バイオ関連法規について理解する。また、バイオ技術者認定試験(中級、上級)に合格できる能力をめざす。							
授業評価アンケートに対するコメント	本講義の授業評価アンケート中での『10点満点での評価』は、平均して10.0点であった。このことから、ある程度十分に、学生への要求に応えられたと自負している。さらに、『授業の準備度』は、5.0点/5点満点中、『話し方の明瞭さ』は、5.0点/5点満点中や『黒板の板書の明瞭さ』は、5.0点/5点満点中、『教員の熱意』は、5.0点/5点満点中、『学生への接し方』は、5.0点/5点満点中、『勉学の雰囲気保持度』は、5.0点/5点満点中。というように、他のアンケート項目もほぼ4点の評価であった。今後も良い授業評価を得られるように、今後も努力を惜しまず、邁進して行く所存である。							
履修登録者数	3名	定期試験 受験者数	3名	合格者数	3名	合格率	100%	